

ひろしまね園芸福祉協会 設立20周年を迎えて

私が初級園芸福祉士の資格をいただいたのは2008年の春でした。それからもう17年経ちますが、活動を続けています。所属しているひろしまね園芸福祉協会は今年10月に20周年を迎えます。これまで多くの方々にご指導、ご協力、ご支援を賜り心より感謝申し上げます。この機会に園芸福祉活動に関してこれまでの思い出や私なりに感じていることをまとめてみたいと思い、筆を執りました。

この活動を始めた動機はそれまでに経験したサラリーマン生活でできなかった事をしたいという希望でした。発電所の主要機器の設計・製作をする会社では毎日原価低減や安全性・品質確保等で頭がいっぱい地域貢献やボランティア活動はほとんど皆無でした。欧州の国際会議に日本から同業他社や大学の教授等で作ったチームで出席する機会に恵まれて、初めてオランダに行ったときに大学教授の教え子のお住まいにお邪魔しました。その方の前庭が日本では見たことがないほど綺麗で素晴らしく、美しいと思えました。また、米国ペンシルベニア州の大学で勉強していた時にはファミリーフレンドが近くの公園に連れて行ってくれましたが、その自然美と規模の大きさに圧倒されました。

妻が素人絵画を毎週仲間と描いていて、その作品の出来具合遊び心で口を挟んだり、玄関やちょっとしたスペースに庭の草花を小さいガラス容器に入れて生けてくれていたので、このような小さな植物の美しさや素人絵画に非日常を感じて癒されていました。

このような自然や植物に触れる機会があったことは、退職後のやりたい事への選択肢に大きな影響を及ぼしました。それまでできなかった事をしたいという希望を持って退職し、園芸福祉活動に携わることになりました。NHKのEテレで毎日曜日朝の9時から「日曜美術館」という番組があり妻と一緒に見えています。3月30日は「染色家 柚木沙耶郎百年の旅路 年の差90歳の友だち」という番組が放映されました。重い心臓病を抱える田添琉乃介君は鼻から空気を入れる器具を付けて毎日一日中好きな絵を描いて過ごしています。当時101歳の柚木沙耶郎（ゆのきさみろう）さんは「ワクワクする気持ちがずーっと広がればいいと思うんだ」という言葉で10歳の田添琉乃介君との文通の中で励ましていました。このという言葉に感動しました。私の園芸福祉活動もこのワクワクする気持ちがずーっと続いているので長くつづけられるのだと思いました。これまでの活動を整理してみると下記のようにになりました。

- ① 呉市の超軟水で日本酒を造る蔵元水龍さんとコラボして、「呉市民の花・椿」の炭でろ過した純米吟醸酒“椿露”を開発・販売しました。呉の大和ミュージアムやデパートでも販売していました。（昨年末に蔵元が若くして急逝されて椿露は幻の酒となりました）
- ② グリーンヒル郷原という呉市の農業公園で植物講座を開催して地域の人々とたのしく交流しています。この講座は園芸福祉士などが各種活動で参加者に楽しんでいただけるようにいろんなスキルやメニューを公開することが目的で、今年で19年目の活動になります。
- ③ 2014年に「花き振興法」が制定されたのを機に広島県内で花きに関する卸商、小売り業、生産者、日本園芸福祉普及協会が広島花きイノベーション事業推進協議会を組織しました。この協議会で県内の社会福祉施設等で地域の人々約3000人に、5年間でフラワーアレンジメントを楽しんでもいただきました。この活動を「花活」と私たちは呼んでいます。
- ④ ③のイベントに参加していた竹原市の社会福祉法人的場会の施設長の御要望に応じて、2つのデイサービスで2週間に一度フラワーアレンジメントを楽しんでもいただき、認知機能の維持に効果があることがわかりました。この5月からは171回目で8年目の活動となります。
- ⑤ 西日本豪雨の被災者を励ますためにカリタスジャパンさんの支援をいただき約1年間、小屋浦という被災地で「花活」を楽しんでもいただきました。

これらの活動では対象とする人々は地域の方々、災害被災者、高齢者など様々です。しかし、参加してくださる方々の笑顔がとても素晴らしく、そして、参加者と交流できた時の私たちスタッフの嬉しさは先の柚木さんおっしゃっていた「ワクワクする気持ちがずーっと」私の心に溜まっていき活動が続けることによって「広がって」いったと思えるようになりました。例えば、⑤の活動では豪雨災害で土しか見ていなかった方々に見て頂くために数枚の妻が描いた水彩画を壁に貼りましたが、イベント終了後に皆さんによければ持って帰ってくださいとお伝えするとアッという間に絵がすっかりなくなってしまい、被災者のお気持ちを目の当たりに実感しました。

つまり、園芸福祉活動は芸術家が思っていると同じような類の思いを持つことができるのだと気づきました。ところで、芸術とは何？という素朴な疑問を自分に投げかけてみました、ネットではダイジェスト版の解説が書かれていましたので少し紹介しておきます。

トルストイの「芸術論」では、
「芸術は人が自分の経験した感情を他人に伝える目的でふたたびそれを自分のなかに呼び起こし、一定の外面的な符号でそれをあらわす時にはじまるのである。・・・・一度経験した感じを自分のなかに呼びおこすこと、そして、それを自分のなかに呼びおこしたら、動作、線、色、音、言葉であらわされた形などの手段によってこの感じを他人もこれを経験できるように伝えること、—これが芸術の働きである。すなわち芸術とは、ある人が自分の経験した感じを意識的に一定の外面的な符号によって他人に伝え、他人はこの感じに感染して、これを経験するという事で成り立つ人間の働きである。」と言っています。

もっと短い格言もあります。

「花を授けるのは自然。編んで花輪にするのは芸術」 ゲーテ詩集

「僕の芸術は貧しい人々との幸福のために捧げられなくてはならない。」 ベートーベン「断片」

「芸術の使命は、自然を模倣することではなくて、自然を表現することである。」

バルザック「知られていない傑作」

また、日本画家で京都造形芸術大学教授の千住 博氏の「芸術とは何か」という本では芸術は、「人と人が仲良くしようとする行為全体に対しての概念」とか「多種多様な芸術は空間や質感、温度感、匂い、湿度感そして空気感こそ、その軸が置かれている」などインターネットが一番得意とするところで芸術は活きているのだと著述されています。

園芸福祉を始めて 18 年目になってようやく園芸福祉活動は芸術の一種ではないかと気づき始めました。これからもその確証を得るために活動を続けていきたいと思えます。

[柚木沙弥郎 YUNOKI SAMIRO](#)

[Oh!SAMMY DAY 柚木沙弥郎 101 年の旅 - 日曜美術館 - NHK](#)